

公開講座

令和3年度 看護学部いのちの講座シリーズ公開講座 篤志献体と医学教育～いのちを考える～

教育課程委員会

進藤美樹、佐藤敦子、加藤重子、藤原隆、迫田千加子、上林聡子

佐々木由紀、藤本和恵、堀井順平、藤原芳美、塩田愛子

棚田芳彦、河本紀子、岡田真亮、三奈木浩平

1. 日時:令和3年10月22日(金)

音楽演奏 13:20～13:50 広島文化学園大学学芸学部音楽学科 HBG プラス・ファイブ

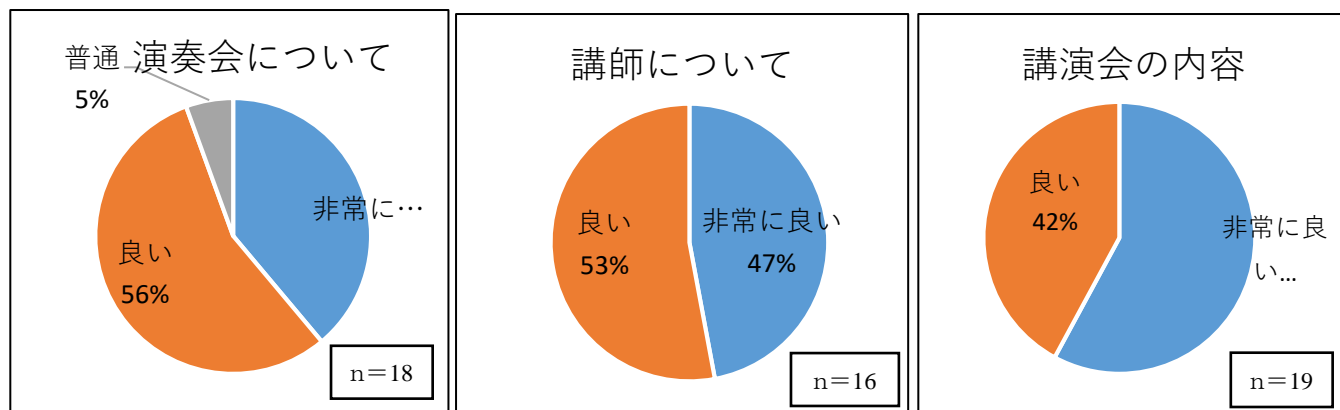
公開講座 14:00～15:30

2. 場所:呉信用金庫ホール(呉市文化ホール)
3. 講師:川崎医科大学解剖学研究室主任教授 樋田 一徳先生
4. 講演題目:篤志献体と医学教育～いのちを考える～
5. 主催:広島文化学園大学看護学部、共催:呉市
6. 参加者:一般26名、学生374名、教職員39名、合計439名
7. 結果:

本学の教育理念のもと教育の一環として毎年開催し地域貢献として住民も対象としている。コロナウイルス感染拡大の場合、直前まで無観客開催やオンラインで開催することも視野に入れていたが、感染対策をとりながら実施できた。医学教育の歴史や、献体希望者の方々との面会を通してのご経験から「人生、いかに生きるか」について考えさせられる講演内容であった。該当科目は1年フレッシュマンセミナーⅡ、2年看護統合セミナーⅡ、3年看護研究セミナーⅠ、4年看護研究セミナーⅡ、全員出席、アンケート調査実施、レポート提出を必須とした。地域の方にとっても、コロナ禍において臨地実習の機会が少なくなっている学生にとっても、講演を通していのちについて考える機会となった。

一般アンケート結果

26名の参加があり19名から回答を得られた(回収率27%)

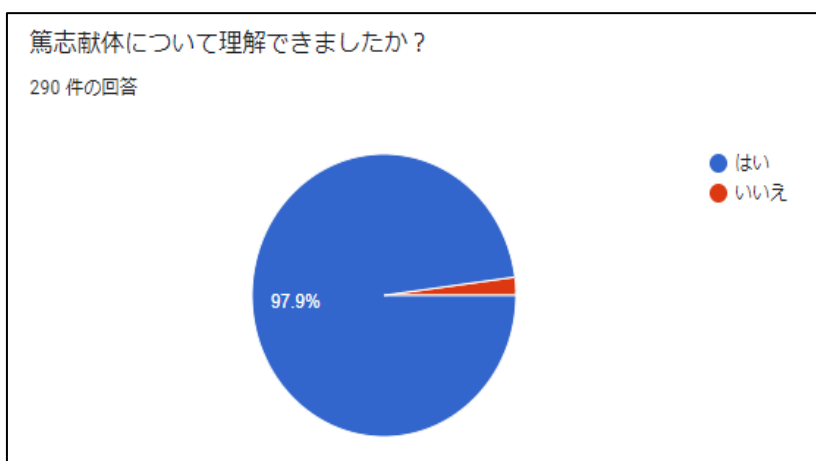
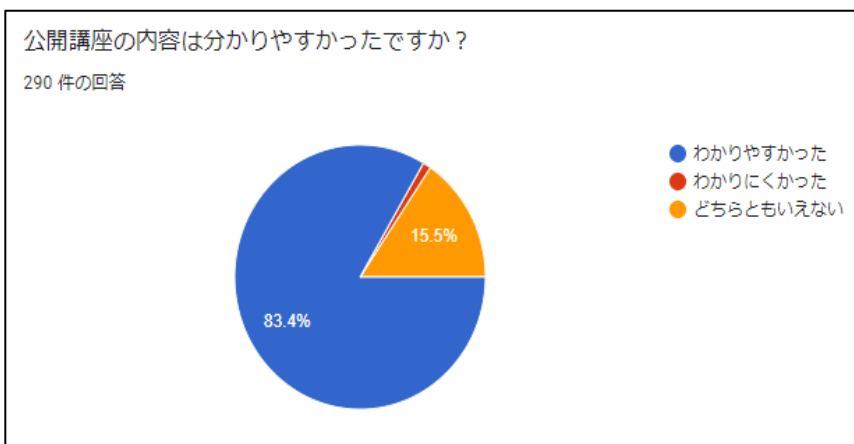
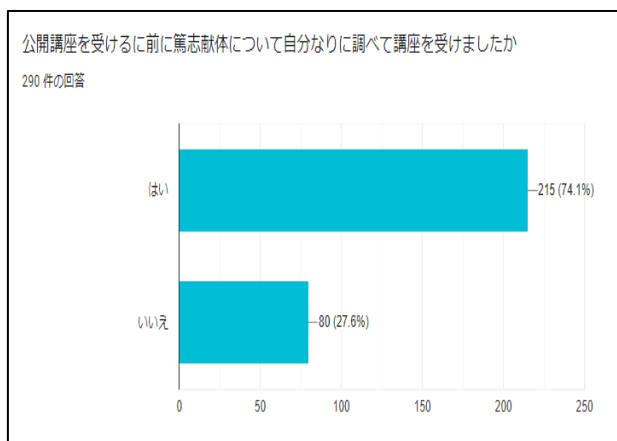


1) 公開講座でお気づきの点（一部抜粋）

- ・ 献体を初めてお聞きしました。色んな恩返しがあることを知りました。
- ・ 献体のことを考えたことがありませんでした。とてもいい話をさせていただいて、生きるということをお教えたくださって有難うございました。大変いい講演会をさせていただいて幸せです。
- ・ とても専門的な話でしたが、献体者が自分だった場合には真剣に考えないといけないと思いました。一人ひとりの想いを尊重されている、一人の体ではないと思った。

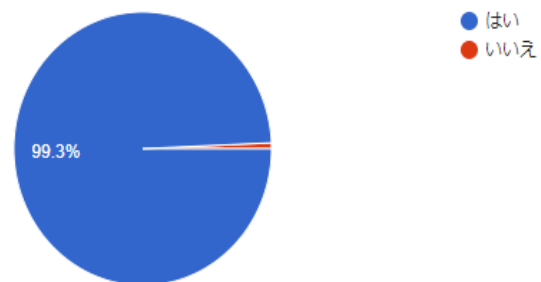
学生アンケート結果

374 名参加のうち 290 名から回答を得られた（回収率 76%）。



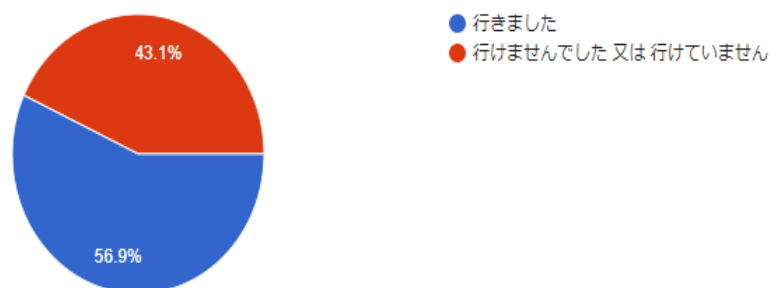
公開講座を聴講して命について考える機会となりましたか？

290 件の回答



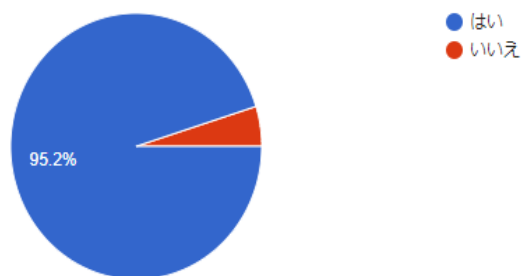
あなたは看護関連領域総合演習科目の一環で解剖見学実習に行きましたか？

290 件の回答



解剖見学実習に出席した時のことを思い出しながら聴講できましたか？

165 件の回答



1) 命について考える機会となった、または考えることができなかった理由（一部抜粋）

- ・ 医療のために「くすのきの会」に入会してくださり、協力してくださる方々がいると知り、今私たちが看護師になるために勉強できているのは、その方々のおかげなんだと思いました。

- 命は、必ずあるものだと考えていたので、こんなに命は、大切なのかと思い知らされました。
- 役に立ちたいからと、献体を希望される方の思いから解剖学を学ぶことができていて、そこから得た情報が医学の発展に繋がっていることがよく理解できました。献体と命の重みについて考えるキッカケになりました。
- 献体を希望される方は将来の医療者に向けて提供されていることがわかり、もっと自分たちも真剣に医学や看護を学んでいかなければいけないと思った。
- 私たちが1年生の時、広島大学での解剖見学は、正常解剖に値すると知った。すごく貴重な経験をすることができ、人体を提供して下さった方々には感謝の思いしか込み上げてこなかった。
- 大学に入学して人体構造機能学などの授業を受けて、なんで体の中のことがこんなにわかるんだろうなどは考えたことはありませんでしたが、今日の講座を聞いて、献体をしてくださる方がいるから私たちが学ぶことができているということ知りました。
- 今まであまり自分の死後について考えてこなかったけど、未来のために死後も人の役に立ちたいという人がいるということを聞き、自分はどうか自分ならどうするか考えるきっかけとなりました。

2) 聴講しての感想や学び(一部抜粋)

- コロナ禍で、毎日のように死者数などをニュースなどで聞き、それが当たり前になっていて、どこか他人事のように感じていたが、公開講座に参加して、医療者になる人間として身近な人として考えていかなければならないと感じた。
- 毎日多くの人が亡くなっていく中で、それぞれ一人ひとりの思いがあり、願いがある。自分とは無関係の人の死でも、自分の近い人だったらと考えていける心の余裕を持ちたいと思う。
- 篤志献体をするという思いを起こすのはもちろん簡単なことではないし、本人が決めたことであってもそのご家族が賛成できないくらい難しいことであるのは重々理解していますが、学生のために、これからの世のために、最後のお勤めとしてご希望されるのは感謝しきれないことだと思いました。私は医学生ではありませんが、同じ医療従事者を目指す身として、これから臨床に出ていく時に一つ一つ行動に気をつけたいと考えます。
- 本日の公開講座を聴いて、篤志献体される方は役に立ちたいという思いでされていることや、私たちが今沢山勉強したり、知識として得ているものは沢山の献体のおかげであるということを念頭におき、感謝の気持ちを持って学習することが私達ができる最大限の恩返しだと思いました。